TIA連携大学院　News Letter
Vol. 95　　2026. 10. 2　発行

第14回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが8月26日から8月28日の日程で開催されました。実施・運営を行った桑原純平准教授にお話を伺いました。

TIA 連携大学院サマー・オープンフェスティバル2026の一環として、2026年8月26日から28日までの3日間、第14回TIAナノグリーン・サマースクールが開催されました。本スクールは、ナノグリーン分野の研究に関心をもつ大学院生および社会人を対象としており、今年度は書類選考を経て参加者を受け入れました。スクールは対面形式で実施し、筑波大学総合研究棟B棟110室を会場として講義および参加者によるプレゼンテーションを行いました。

今回も、各分野の第一線で活躍する8名の講師を迎え、それぞれ90分間にわたりご講演いただきました。講義では、高輝度放射光や量子ビームを用いた先端計測技術、光応答性材料、有機半導体・有機エレクトロニクス、太陽電池、ナノカーボン材料、電子顕微鏡による材料解析、触媒を利用した化学変換など、ナノグリーン分野を支える多彩なテーマが取り上げられ、基礎から最先端研究まで幅広く学ぶ機会となりました。参加者からは活発な質問が数多く寄せられ、本分野への理解を深めようとする意欲的な姿勢が随所に見られました。さらに、参加者にはグリーンイノベーションに関連する3つの課題から1つを選択し、考察をまとめたレポートの提出を求め、筑波大学教員が評価を行いました。

1日目の始業式では、教員紹介、参加者の自己紹介及び課題説明を行い、スクールの目的や進め方について共有しました。

2日目に実施したプレゼンテーションセッションでは、参加者が事前に提出した研究概要を基に口頭発表を行いました。多様な専門分野の参加者が集まる中、専門外の聴講者にも理解できるよう、自身の研究内容を分かりやすく整理して発表する工夫が見られました。質疑応答では参加者同士が積極的に意見を交わし、専門分野を超えた交流と相互理解が深まりました。この発表経験は、研究成果を的確に伝える力を養うとともに、新たな視点の獲得や研究の発展につながる貴重な機会となりました。

後日提出されたレポートには、サマースクールで得た知識や経験に加え、新たな発想や独自の視点が盛り込まれており、参加者の学びの深さがうかがわれました。所定の要件を満たした参加者全員に対して修了証を授与しました。また、講義における積極的な質疑、プレゼンテーションおよび討論への貢献が特に優れていた2名を奨励賞受賞者として表彰しました。

普段の研究活動や学会参加だけでは接する機会の少ない研究分野に触れることで、参加者はより広い視野と多角的な発想を身につけることができたと考えられます。本スクールを通じて得られた知識や研究者間の交流、新たな研究視点は、参加者が今後研究者として成長していく上で大きな財産となることが期待されます。

開催日	2026年8月26日（水）～8月28日（金）
会場	筑波大学 総合研究棟B
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究群，エネルギー物質科学研究センター（TREMS）
共催	物質・材料研究機構（NIMS）
構成	講義8コマ＋プレゼンテーションセッション（レポート提出）
参加者数	6名（大学院生　6名）
受賞者	奨励賞　2名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。　https://tia-edu.jp

●編集・発行・連絡先：
国立大学法人 筑波大学 TIA推進室　tia-edu@un.tsukuba.ac.jp
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1－1－1